



校報 水糸者

No. 870

29年度・第43号

「不便さ」の中で知ったこと、それは…



宿泊体験学習 改め 絆深めるキャンプ!

雨にもたたられずに全活動を予定通りにできた、22日～23日に県北青少年の家での5年生「宿泊学習」は、全ての活動をグループで、全員で協力することを通して『絆深めるキャンプ』を思う存分に体験して来ました。教室内では見る事ができない友だちの新たな顔や姿を発見するなど、今後の学校生活に役立つための得難い体験をしてきました。

親元を離れての宿泊体験は、多くの子ども達にとって初めての体験であり「宿泊体験」学習が「四苦八苦・大変」学習だったようですが友に助けられながら、やり遂げる体験を通して、感動や感激のほかに、絆も深める事もできた今後の学校生活に生きる、大変有意義な「宿泊体験学習」となりました。

『同じ釜の飯を食う』、『裸の付き合い』という言葉の本当の意味と意義にも気付いた、心身のたくましさを養えた根っこ幹を養った1泊2日となりました。

【第1日目の様子】



今年も多くの子ども達が5年生を見送ってくれました。



最初の活動、ウォークラリーでは難問と難コースに早くも疲れ気味。



協力してゴールにたどり着いた時、どの班も笑顔でした。



赤々と燃え上がる火を囲んで心から楽しんだキャンプファイヤー。



火の神から「友情」、「感謝」、「協力」、「努力」の火をもらいました。



てきぱきを炊事を行い、あっという間においしいカレーができました。何と5杯もお替りをした子もいました!



宿舎に戻り、入浴後はしっかりと、一日の振り返りを行い、明日への意欲を高めました。

雨にもあたらずに、全ての活動が楽しくできました。子ども達の明るく元気な姿がとてもよく目立った第1日目となりました。

【第2日目の様子】



二日目の最初は「そうじ」から。『来た時よりも美しく』が県北青少年の家の合言葉の1つでもあります。



協力・努力しながら、悪戦苦闘の末やっと整えたベット。



「5年生は少食です。」と、担任から聞いていましたが、どんどんお替りをしていた子ども達。



よく食べていた子ども達。それだけよく活動した証拠でもあります。



夢中になっていろいろな木を組み立て世界に1しかない、フォトフレームを創っていました。



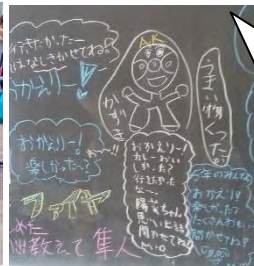
誰も眠ることなく、しっかりと星の勉強もできました。



36人で心を1つにしてやり切った自信と、友のありがたさに改めて気づかされた2日間の活動の最後の記念撮影。

結団式の時に話した、「笑顔で最後の記念写真を撮りましょう」の通りとなった5年生。

5年生の到着式を見つめる2年生の子ども達。5年生のお兄さん・お姉さんがいなかった時間がとても寂しかった事が伝わってきました。



5年生の教室の黒板には、6年生からの温かいメッセージが書かれていました。「集団宿泊学習」の苦勞を知った子でなければ書けない温かいメッセージに、6年生のやさしさと成長を感じました。

キャンプファイヤーの時に「はじめは、何でも一人でできると思っていたが、一人では何にもできないことがわかった。みんなの力を借りて協力していくことの大切さを知った。」という感想を話した子がいました。活動の全てを自分一人で行う「不便」で「不安」な体験や、視覚と嗅覚・触覚・味覚・聴覚の五感を使っての体験学習、テレビやゲームがない生活…。

友と共に過ごした2日間の活動を通して子ども達は、個々がしっかりと責任を果たしやり切る事で集団が高まっていく事や集団や、一人の笑顔がみんなを明るく楽しくしてくれる事などの、今後の学校生活に役立つ貴重な事を学ぶことができました。

今回利用した、県北青少年の家の合言葉は『来た時よりも美しく』です。子ども達が活動で使った場所や泊まった部屋は「来た時より美しく」になっていましたが、36人の子ども達の内面も表情も確実に『来た時よりも美しく』になっていました。

不便の中で、友と共にやり遂げる体験を通し、確実に一皮むけた5年生でした。